

千葉県芸術祭

CHIKYO 市響

25周年記念シリーズ
第114回コンサート

1976年10月10日(日)PM 2:00
千葉県文化会館大ホール

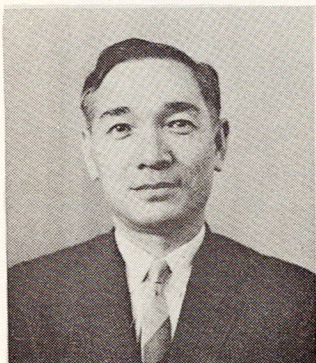
主催 千葉県教育委員会・千葉県芸術祭実行委員会・千葉市教育委員会
千葉県音楽振興協議会・千葉交響楽団協会・市川交響楽団協会
後援 京成電鉄株式会社



安 川 加 寿 子



市 川 交 響 楽 団



文化庁長官メッセージ

市川交響楽団25周年記念コンサートが開催されるに当り一言お祝いの言葉を申し上げます。

国内各地にその地方の人々の熱意と努力によって個性豊かな文化が育ち、定着することは、我が国文化の発展のため極めて重要なことであります。この意味で近年全国各地に特色をもった交響楽団が生まれ、成長しつつありますことは心強い限りであります。

25周年を迎えられた市川交響楽団はこれら多くの交響楽団の中にあっても際立って着実な歩み続けその実績は衆目の認めるところとなっておりますが、楽団を今日に導かれるまでには、幾多の困難があった事と存じます。

これら困難をよく克服してこられた関係各位の御努力とこれを支えてこられた市民各位の御声援には心から敬意を表するものであります。

関係各位におかれてはこの25周年記念演奏会を機に、いよいよ心を一つにして精進を重ねられ音楽を通じての地方文化の発展ひいては我が国芸術文化の振興に寄与されますよう衷心より希望する次第です。

終りに今回の演奏会の御成功をお祈りしてお祝いの言葉といたします。

安 嶋 彌



満25周年を迎えるに際して

千葉交響楽団協会
市川交響楽団協会

会長 泰 道 照 山

或る日、古賀米吉先生と渋谷寿光先生、藤野舜正さんが突然来訪されて、市響の会長になれとのお話があって、お引受けしてから早いもので、文字通り星移り年替りて25年を経過した。其の間に於いて数々の反省やら感慨も亦少くはない。数年前20数年振りで中共に旅して、郭沫若さんにもお会いした。その時御子息の博君の話が飛び出した。その郭君も今上海で高級官吏をしていると聞いたが、彼もこの楽団の最初の幹事長であった。その時代には全国に十数団あった楽団は殆んどが雲散霧消してしまい、当時のものとしてはNHKは別として、東京も内容的には幾度びか改編され、群馬もプロに転向し僅か数楽団と横浜、わが市響のみがアマ楽団として、その歴史と純粋性を誇り得る存在となってしまった。云う迄もなく、交響楽団と云うものの維持存続発展と言うことが如何にリーダーの熱意と協力なくしては困難なものかを証するものと云えよう。

私自身は何のお役にもたち得ず荏苒会長の名を汚すのみで、洵に愧しい次第であるが、この市響が隆々天下に其の名を知らしめた所以のものは、第一には、各役員を甫め県、市、並びに多くの賛助会員の方々の温い御愛情に併せて、団員諸氏の協和の心であったことは否めぬ事実である。加えるに、村上理事長の円満なる人格とその熱意に負う所が洵に大きい。又、今回表彰される永年勤続者が24名も居られる事実は洵に喜ばしき限りである。村上理事長には長い年月一貫して、うむことなく、常に「これは私の天から課せられた使命です。」又「この市響を単なる趣味としてではなく、クラシック音楽を広め、以って情操を養いたい」尚、「私一人の力は甚だ小さいが、一辰耀きて諸星之に倣うことを願っております」尚、又「命ある限り続けたい。続けることにこそ意義がある」等々常に聞かされた。事実市響の実績は、別に示された如く、誇示して憚からぬものがある。特に昨年、千葉県で台風下ながら第3回全国アマチュアオーケストラ・フェスティバルを盛大に催し、しかも参加団体である地方楽団に勇気付けを与え得た事などは市響がホスト役を務めたればこそである。

本日茲に当楽団の満25周年記念コンサートが催されるに当り、諸賢諸氏に対し満腔の謝意と敬意に併せて、心からなる祝意を表し、今後一層融和の心をもって、限りなき前進の火を消すことなく、続けられんことを切に念じて止まない。終りに臨み、御後援の諸彦並びに団員御一同の御健勝と御清福をお祈りして、楚辞ながら祝辞に代える次第。

団員募集

- | | | |
|----------------------|--|---|
| 入会金 500円
月会費 200円 | ●市川交響楽団
市川小学校講堂(14号国道沿)
毎土曜 6時30分～9時練習 | ●市川交響吹奏楽団
宮田小学校(市川駅南商店街)
毎金曜 6時30分～9時練習 |
| 他楽団を兼ね
る事ができる | ●市響ジュニアオーケストラ
熊谷ビル 3階(市川駅南口側)
毎日曜午後1時～4時練習 | ●市川混声合唱団
自然幼稚園(市川消防署本部裏)
毎木曜日 7時～9時練習 |

プログラム

演奏 市川交響楽団

ピアノ 安川加寿子

指揮 金子建志

管 弦 楽

歌劇「後宮よりの逃走」序曲……………モーツァルト

ピアノと管弦楽

ピアノ協奏曲 二長調 K. 537

「戴冠式」……………モーツァルト

アレグロ

ラルゲット

ロンド(アレグレット)

—カデンツァ—故矢代秋雄氏作曲のものを使用—

…………… 休 憩 ……………

交 響 楽

交響曲 第7番 ホ長調……………ブルックナー

アレグロ モデラート

アダジオ

スケルツォ

終 曲

安川加寿子音楽略歴

- 1922年 兵庫県に生れる（草間姓）14ヵ月で外交官だった両親と渡仏。
10才でパリ国立音楽院入学。ラザール・レヴィ氏に師事。
- 1937年 一等賞首位（プレミエール・ノンメ）を得て、同学院を卒業。
パリ国際婦人ピアノコンクールに第一位入賞。フランス、ドイツ、スペイン、スイス、各地で演奏活動。
- 1939年12月 第二次大戦が起きたため帰国。
- 1940年 NHKにおける最初のラジオ放送、ショパンの第2ピアノ協奏曲へ短調。
12月24日ローゼンシュトック指揮の新交響楽団（現在N響）とモーツァルトのピアノ協奏曲イ長調K.488を協演。以後定期公演、臨時公演に47回及び地方演奏会に出演。其他国内各交響楽団の独奏者として数多く出演。
- 1941年4月24日 日本における第一回リサイタルを日比谷公会堂にて開催。
以後現在まで毎年リサイタルを開催（昭和20年21年を除く）
- 1947年 芸術祭文部大臣賞を受賞。
- 1949年 毎日新聞社主催ショパン没後100年記念として連続4回のリサイタルを日比谷公会堂において開催。
- 1950年 1950年及53年ラザール・レヴィ教授来日により同教授と二重奏を演奏。
同年より毎日新聞社主催にて邦人作品ピアノ演奏会を10回に亘って開き、ピアノ曲創作の発展に尽力する。
- 1953年 毎日音楽賞受賞。パリ音楽院コンクール審査員として招かれる。パリにて、オーケストル・ナショナルに出演。
- 1959年 フランス政府より学術勲章を受賞。
- 1960年 フランス政府より文芸勲章を受賞。
ショパン・シューマン生誕150年記念演奏会を3回に亘って開く。
- 1967年 フランス政府からフランス文化への貢献によりレジオン・ドヌール勲章受賞。
- 1968年 ドビュッシー没後50年記念演奏会を催す。
- 1970年 第21回放送文化賞を受く。
- 1971年 6月ロンティボー国際音楽コンクールの審査員として渡仏。
- 1971年5月28日 演奏30周年記念リサイタルを毎日新聞社主催で東京文化会館大ホールにおいてNHK交響楽団の協演のもとに開く。
- 1972年 第13回「毎日芸術賞」（昭和46年度）を受賞。
- 1972年7月17日 オーストリー・ザルツブルグのモーツァルトウム夏季講習会（3週間）の講師として招聘
- 1973年9月 ジュネーブ国際音楽コンクールの審査員として招聘される。
- 1975年5月 ベルギー国エリザベト皇太后国際音楽コンクールの審査員として招聘される。
- 6月 第31回（昭和49年度）日本芸術院賞を受賞。
- 7月 東京文化会館にてラヴェル生誕100年記念リサイタルを開く。
- 10月 N響第671回定期公演（外山雄三指揮）及び札幌第153回定期演奏会（岩城宏之指揮）にラヴェル作「左手のためのピアノ協奏曲」を演奏。
- 11月 N響特別演奏会（尾高忠明指揮）にショパン作ピアノ協奏曲第1番を演奏（厚生年金ホール、足利市民会館）。
- 1976年4月 スペイン国ハエン国際音楽コンクールの審査員として招聘さる。
- ★日本初演の独奏曲 ドビュッシー、ラヴェル、フォーレ等の大部分の作品及びプーランク、ミヨー、イベール等の作品等。
オーケストラとの協演＝フォーレ：バラード、ダンディ：フランス山人の歌による交響曲、サンサーンス：第2第5協奏曲、ファリア：スペインの夜の庭、ラヴェル：左手のための協奏曲、オネーゲル：コンツェルティーノ、シャン・フランセ：コンツェルティーノ等。
- 現在 東京芸術大学教授、桐朋学園大学講師、大阪音楽大学講師、毎日新聞・NHK音楽コンクール委員・審査員、日本ショパン協会副会長、日本演奏連盟理事、福山賞運営委員長。

金子建志

- 1948年 3月8日千葉に生れる。
 1966年 千葉高等学校卒業。
 1970年 東京芸術大学楽理科卒業。指揮を斎藤秀雄氏、渡辺暁雄氏に、音楽理論を柴田南雄氏、水野修孝氏に師事。
 1972年 3月、市川交響楽団の第9の演奏会で、渡辺暁雄氏のアシスタントを務める。4月、千葉フィルハーモニーを結成、第一回演奏会を開く。以後、千葉フィルハーモニーと市川交響楽団の指揮者を務める。
 1973年 3月、深沢亮子氏と協演。10月、国体記念演奏会で宮沢明子氏と協演。
 1974年 3月、海野義雄氏と協演。10月、宮沢明子氏と協演。12月、遠藤郁子氏と協演。
 1975年 3月、野島 稔氏と協演。



市川交響楽団員 ◎印はパートチーフ

会長 泰道照山	深 沢 武 夫	河 本 和 昭	高 山 公 孝	〈トランペット〉
団長 村上正治	◎福 原 祥 子	佐 藤 学	◎秦 俊 夫	相 葉 延 市
揮指 金子建志	村 田 美千子	◎田 頭 扶	坂 逸 郎	◎桑 村 益 夫
	村 上 葉 子	中 沢 健		杉 山 雅 行
〈第1 ヴァイオリン〉	水 野 紅 魚	福 原 耕 二	〈クラリネット〉	竹 村 一 利
石 井 久 雄	山 崎 道 子	古 川 康 一	◎池 田 八十二	山 本 昭
小 川 和 美	吉 川 多津子	山 口 勝 規	伊 藤 順 夫	吉 松 俊 男
金 指 和 哉	三 瓶 政 一	山 崎 泰 弘	時 田 雄	佐 竹 英 男
島 貫 俊 秀	〈ヴィオラ〉	横 田 朝 之	永 田 豊	〈トロンボーン〉
永 田 匡	朝 田 享	村 川 芳 信	半 藤 嗣 人	太 田 一 之
二 宮 伸 雄	荒 井 淳 子	折 笠 満		◎小 池 達 美
福 井 康 祐	枝 村 範 嗣	〈コントラバス〉	〈ファゴット〉	柴 田 孝 一
星 千鶴子	大豆生田 稔	川 口 嘉 之	金 坂 哲	菅 谷 泰 一
前 原 共 子	斉 藤 十一郎	菊 池 克 彦	森 本 純 一	津 田 雄二郎
◎松 山 和 子	沢 田 健	鈴 木 孝 治	◎米 原 光 夫	
三 原 明 人	篠 田 壮 夫	鈴 木 達 郎		〈チューバ〉
山 上 響 子	田 村 博 文	飛 田 正	〈ホルン〉	高 橋 純 一
吉 岡 一 郎	鶴 島 章 子	◎牧 野 一 男	天 野 晶 吉	
石 井 美穂子	中 村 祐 美	村 上 信 乃	小 川 邦 雄	〈打楽器〉
〈第2 ヴァイオリン〉	藤 枝 通 子	薬 丸 洋 秋	小 川 芳 雄	岩 橋 正 治
小 原 聡 子	星 乗 昭	〈フルート〉	◎越 塚 康 史	小 坂 克 志
上 敷 領 清 香	三 浦 邦 彦	岡 本 恂 三	小 林 秀 之	◎内 藤 弘 之
木 佐 貫 秀 彌	◎横 田 行 雄	木 村 純 一	志 賀 恒 夫	
熊 谷 信 昭	両 角 里 香	柴 田 重 信	高 橋 美枝子	〈ハーブ〉
島 貫 百合子	〈チェロ〉	曾 我 真諭紀	高 橋 隆 一	早 川 利 恵 子
下 田 梨 里	井 出 佐 久 夫	◎竹 中 靖	高 橋 勝 陽	
多 田 芳 枝	植 草 寛之助		福 田 陽	〈ピアノ〉
中 森 浩 子	小 川 博 嗣	〈オーボエ〉		横 田 光 代
仁 礼 郁 子	温 文 華	北 里 孝 浩		

曲目解説

歌劇「後宮よりの逃走」序曲

モーツァルト

1781年6月からモーツァルトは、故郷ザルツブルグを去ってウィーンで生活するようになったが、「後宮からの逃走」はモーツァルトがウィーンで作曲した最初の歌劇である。

1782年国民歌劇場で初演され成功をおさめた。内容はウィーンの民俗的な音楽劇ジングシュピールの形体をとり、舞台はトルコの後宮でここにとりこになっている美しい婦人コンスタンツェを青年ベルモンテが救い出す物語りが筋で、この序曲はプレスト〜アンダンテ〜プレストときわめて軽快な主題をヴァイオリンで初まりやがてピッコロ、トライアングル、シンバル、大太鼓をふくめてのトゥッティとなる。響きそのものトルコ風で繰返されながら強弱の対照をみせてすすみ属和音上に終ると短調のアンダンテの部分となる。ここで第一幕冒頭で歌われるベルモンテの美しいアリアの旋律がハ短調をとって奏され、再びプレストの主部が繰返される。やがて第一幕へ休みなくつながっていくのだが、本日演奏される序曲はヨハン・アンドレの手によるもので今日の演奏会にはこれが用いられています。

ピアノコンチェルト「戴冠式」

モーツァルト

この協奏曲「戴冠式」を記するに題名の由来と前後の作品とモーツァルトの当時の経済的な困窮は誰でもが周知のことだろう。この曲が作曲される前年に「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「ドン・ジョバンニ」そしてこの戴冠式が1777年2月、ウィーンで作曲されている。その後同年6月に交響曲39番、7月に40番、そして8月に41番と三大交響曲を頂点にして生みだされる作品も減ってきた。その後も安易に金を得る手段として作られたといわれるメヌエット18曲、ドイツ舞曲12曲、田園舞曲15曲、そして貧困の中で1789年11月次女の誕生（その日に死す）弦楽四重奏（K.575）クラリネット五重奏（K.581）、1790年1月「コシ・ファンツァ」の初演と意欲的に書き上げたが家計の苦しみはいよいよ度を増し、時に10月フランクフルトに於いてレオポルト二世新帝の戴冠式が挙行されることを耳にし、招へいされないのにも拘わらず集まった各地の貴族たちを相手に演奏会を目論み自費で同地に赴いて国立劇場でピアノ協奏曲2曲（この曲とヘ長調K.459）を演奏したため2曲とも「戴冠式」協奏曲と名がつけられていたがヘ長調よりこのニ長調の方がはるかに優れているところからこの曲を「戴冠式」として今日親まれている。

第一楽章 アレグロ ニ長調

第一ヴァイオリンが第一主題をやさしくしかも華かな気分を奏し、管弦楽による呈示部を終え独奏に入るや華れいなピアノのソロにオーケストラが美しくそれを彩り、明るい気分を盛り上げてカデンツァに入り短い総奏で曲をとじる。

第二楽章 ラルゲット イ長調

同時代の他の協奏曲のようにピアノの静かなモノローグにはじまるこの楽章、三部形式をとるが、他の曲に於いては当然属調に移される中間部が転調せず原調のままピアノが旋律を歌ってゆくのがこの曲の特徴とされている。

第三楽章 アレグレット ニ長調

ロンド主題は型どおりに、まずピアノに現われ、第一ヴァイオリンが主奏する全管弦楽によって反復される。以下威勢のよい経過句がしばしば続いた後、別のロンド主題がさながら副主題を想わせるような流れいさをもって原調でピアノに現われる。最後に出るイ長調の楽句はイ長調協奏曲（K.488）の終楽章のコーダの旋律と同じ性格をもって三たびロンド主題がピアノから管弦楽へとわたされ呈示部と同じ経過句をたどりながら最後は力強く曲を閉じる。

交響曲 第7番 ホ長調 アントン・ブルックナー

古今の作曲家の伝記を読みますと、大作曲家ほど浮世離れた珍談・奇談が多いのですが、ブルックナーは、その純粹かつ素朴な性格故に、最も面白いエピソードの持主です。その中から2つ程御紹介します。

〔その1〕ブルックナーは当時ヨーロッパを席卷していた楽劇の巨匠ワーグナーを大変尊敬しており、一度知遇を得たいと思いつつも引込思案な性格の為に、演奏会に現れるワーグナーを遠くからながめているだけというようなことが多かったのですが、やがて、自作の交響曲第2番と3番を献呈するというのを口実にワーグナーとの面会を決心します。

ワーグナーはバイロイト祝祭劇場の建設に奔走しており、自分のニーベルンクの指輪の総譜さえピアノの上に置きっぱなしという状態だったのですが、ブルックナーの交響曲の総譜を見て大変に驚き第3番の献呈を受けることを承諾し、いつかブルックナーの全交響曲を指揮してあげようなどと上気嫌な約束をし、二人でビールで乾杯します。ところが感激の余り、飲みつけないビールに酔ってしまったブルックナーは、家に帰ってみると、どちらの交響曲の献呈を受けてもらったのかすっかり忘れてしまい、手紙でワーグナーに確認するはめになります。「トランペットで始まる方ですよ。〔第3番の事〕ブルックナー君」という返事をくれたワーグナーは以後、トランペットという仇名でブルックナーを呼ぶようになります。こうして結ばれた二人の師弟関係的な友情はワーグナーが死ぬまで続くのですが、この7番はワーグナーの死を予感したブルックナーの切々たる感情が滲み出ています。

「私はたった一人だけベートーヴェンに手の届く人を知っている。それはアントン・ブルックナーだ。」……………ワーグナー。

〔その2〕ウィーン・フィルで自作を指揮した時の練習での事。ブルックナーはおもむろに指揮棒を上げた。楽員は音を出すべく身構えた。……………ここまでは全く当たり前なのですが、その指揮棒がいつまでもたっても下りてこない。たまりかねたコンサートマスターが、「先生どうぞ始めて下さい」と言うのとブルックナーは答えて、「皆さんからお先にどうぞ。」という具合ですから彼が指揮して初演した交響曲はことごとく失敗で、全曲が終わったら残っていた客は数人の彼の弟子だけだったという事もあります。それで彼の交響曲は弟子の指揮者の忠告によってカットされたり、オーケストレーションが変えられたりした結果様々な版が存在することになります。

ところがこの7番は後にベルリンフィルの初代指揮者となった当時26才のニキッシュが曲に感動し初演を買って出てくれたおかげで、彼の交響曲としては初めての大成功を収めました。その為この曲に関しては版による違いがあまりなく、ニキッシュが2楽章に加えたシンバルとトライアングルが目立つぐらいです。

〈第1楽章〉ブルックナー開始と言われる弦楽器のトレモロで始まる極めて耽美的な楽章です。ブルックナーの交響曲のどれにも共通して出て来る。自然、神、信仰といったテーマよりもはるかに人間的な感情の動きが強く顕れており、旋律の美しさは彼の全交響曲の中でも極立っています。

〈第2楽章〉「先日、私はとても悲しい気持ちで家に帰って来ました。というのは師(ワーグナー)の生命が長くはないのではないかと感じたからです。」これはブルックナーが友人にあてた手紙ですが、この予感は不幸にも的中し、最後のクライマックスでシンバルの鳴るあたりを書き終えた頃、ワーグナーの死の知らせがもたらされます。この部分でワーグナー・チューバとホルンによって歌われる惜別の情は、痛切に聴く者の胸を打ちます。ベートーヴェンの「英雄」の第2楽章やワーグナーのジークフリートの送葬行進曲と並ぶ、英雄が英雄の死を描いた壮大な楽章です。

〈第3楽章〉A—B—Aの三部形式を持つスケルツォで、楽章中何度も現れるブルックナー休止が印象的です。〔全曲が終わったと感違いして拍手をなさらないように。〕

〈第4楽章〉1～3楽章が感情の流れから自然に出て来た音楽という感が強いのに対し、この楽章はブルックナーが対位法の技術を駆使してまとめあげた労作と言うことができるでしょう。曲は最後に第1楽章の第一主題による勝利の感情の中に終わります。



善意に支えられた31年間

千葉交響楽団協会
市川交響楽団協会
理事長 村上正治

もう早いもので、文化活動を始めてから31年になりました。

千葉交響楽団協会の中心的存在である市川交響楽団が産ぶ声をあげたのは25年前のことですが、胎動期に当る昭和20年12月結成した市川文化会音楽部の活動があったればこそで、この時代の青年達の働きと努力を忘れる事が出来ません。

その時代のスタッフは、小生をキャップに、実業家の御子息である作田康雄君、友人の本田堯君（現在札幌在住）、全国都道府県教育委員長、教育長会の事務局長をしていられる藤野忠士氏の青年期、友人の島田治彦君、無名時代の音楽評論家大木正興氏、初代京成社長令息の本多君達でした。

若さと情熱に充ちたこの青年達は、慰めにも励ましにもなる高気な美しいクラシック音楽の普及啓蒙に、涙ぐましいまでに献身し、隔週のレコード・コンサートや、隔月の大家による「名演奏含む懇談会」を、出演者や聴衆会員の立場になって気を配り、喜んでその事に骨折りました。当時は窓もステージも座席もピアノもない会場が多く教室から教壇や椅子を借り出して列べたり、どん張類を苦勞して各小学校から借り集めて窓ふさぎにしたり、各自の家からスタンドや花台や花瓶を持ち出しては飾ったり、ひたすら演奏会場のムードづくりに精を出しました。ピアノは好意的な国分小学校から借りて青年達の太八車で会場まで運びました。空腹勝ちのこの時代のことですから、その時のピアノの重さは痛切に感じました。又、資金もないので印刷も出来ず、手分けして7、80枚のポスターを書いては、私と青年達が貼って歩きました。この時にも電柱には貼らぬ事、無断で塀に貼らぬ事等他人の迷惑にならぬよう気を配りました。ポスター書きはその後10年間続きましたが、ポスター貼りは現在もつづいています。出来るだけ費用をかけないで、クラシック音楽の普及啓蒙に尽くそうと言うのが私共の主張です。打算的な時代に、少しでも他人のためになるサービスする心を育て、互いに助け合う平和な潤いのある社会が実現すればと、願って現在に及んでいます。

昭和26年にオーケストラを結成したのも、今までの歩みでは力が弱いし、感化力の強力な楽団を通しての活動の方がしやすいと思ったからです。幸い、文化会の維持会員で楽器のできる方が20名程いましたので、その方々が中心になってカルメン組曲から練習に入りました。

当時は、毎日曜の午後2時から宮田小学校の48坪ばかりの小講堂で練習をしていましたが、3ヶ月の後には50名程の編成にふくれあがり、7月には文化会より発展独立して市川交響楽団協会と改称、その協会の唯一の楽団として発足したわけです。メンバーには、ロケットの糸川英夫博士、中共の要人郭沫若の次男郭博氏、高校生の熊谷信昭君（現在の事務局長）、江口朝彦君（現在N響コントラバス奏者、芸大、桐朋音楽大講師）、高校教員の野村栄氏、京成社長（当時専務）川崎千春氏、コンサートマスターに七沢八郎（七沢楽器店主、当時は東響の副コンサートマスター）、国府台精神科主任の田頭実氏、千葉商大生の横田行雄君、両国高校生の桑村益夫君、似鳥健彦君（現在N響オーボエ奏者）、芸大生の上村正雄君（現在京響チェロ主席）、東京医科歯科大教授の嶺脇四郎氏、画家の竹中靖氏、神学生の村上英一君（戸畑教会牧師）N響のオーボエ奏者坂逸郎氏（当時は東響所属）等の方々がおられました。本日の演奏にはその当時の方々が10名も出演されるはずでした。

オーケストラを結成して何もない時代ですので、譜面台代りに生徒用椅子を重ねて使ったり、ホルン代りにアルトホーン、バリトンホーンを吹いたり、ティンパニー代りに小学校、中学校から借用した太太鼓を代用したりしました。しかし本番には、ティンパニーもコントラバスも無ければ形がつかまないので、前日になって、やっと他の大学や楽団へ借りに行き、苦勞して電車で運んだものです。

なつかしい忘れられぬ思い出に、山崎製パンの社長飯島藤十郎氏が自ら運転して大岡山の東京工大まで私と借りに行って下すった事です。

又、結成して半年後の正月に、理事であられる古賀、渋谷、藤野三先生が、御忙しい中を喜んで私と共に泰道照山会長（旧三八）宅まで出向いて下さり、泰道氏は快く会長就任を受けられて今日に至りました。その時に会長がコントラバスを早速購入して下すった事です。穴の空き勝ちだったバスのパートがこれで充実したわけですから非常に嬉しい事です。殊にコントラバスを担当していた江

口君の喜びようは今でも目に浮びます。

思い出は数限りなくありますが、紙面の都合上創生期の事のみ重点に書きました。以上のことを通しても市響の活動には、各方面からの御支援と数百名の維持会員、賛助会員、優秀な団員の協力によって支持されている事を思います時に、責任者の一人として深く感謝を覚えます。

終りに私共の念願にしていました演奏を喜ぶ青少年の数が次第に増え、7年前には習志野市に、昨年には船橋、千葉、八千代、銚子市にと、又、我が市響にもジュニア・オーケストラが誕生して強力な感化力のある交響楽団が増えている傾向は千葉県民にとって嬉しい限りです。現代のような物質文明の時代に精神文化に連なる純音楽の活動は非常に大切で、それだけ市響の使命も大きいわけです。市響の活動が活発な事は、優秀な団員に恵まれ、団員各位が耐ゆまぬ努力をはらっている事は勿論のこと、奉仕精神に徹した歴代の団役員の陰の力が非常に大きく、泰道会長初め各理事、監事、評議員、顧問、参与、一般維持会員の心の籠った永い御支援の賜物で、県、市、各界のご協力に負う事が大変多く、25周年記念に当り、こゝに謹んで皆様に御礼申し上げます。



SPORTS IN AUTUMN

(スポーツの秋)
(ファッションの秋)
(食欲の秋)

出逢いのひろば
セントラルプラザ

お買物は ニューナラヤ



ニューナラヤの商品券

北は札幌から南は沖縄まで
全国の三越本支店と、三越
提携百貨店で共通にご利用
になれます。
尚、三越の商品券でもお買
物ができます。

三越 提携百貨店 ニューナラヤ

国鉄千葉駅前大通り・火曜定休・☎0472(24)3131



昭和26年7月20日市川交響楽団協会発会演奏



少女の頃の深沢亮子との練習風景



昭和27年頃の市響メンバー有志



元気な井口基成氏との練習



在りし日の林リ子氏との協演



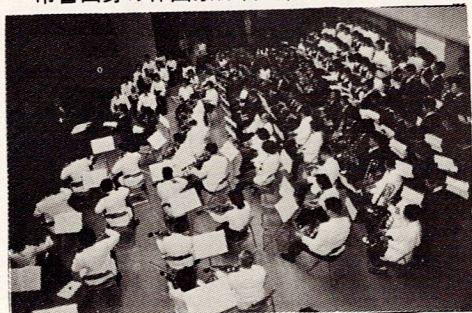
初代インスペクター郭博氏の送別会古き幹部連



市響出身の作曲家保科 洋氏による練習



20周年記念パーティー



100回記念フォーレ・レクイエム演奏

25周年記念演奏会を祝う

岩手県民オーケストラ 常任理事 高橋 脩 三

25周年記念演奏会を心からお祝いします。この上ない敬意とともに、羨望の限りです。人間の年齢にして25才は青年期、いかなる難関ものともせず活動する時代に入っの事業・演奏会の成功は、北の岩手からも、感動せずにはられません。

その情熱的な演奏は昨年の第3回アマチュアオーケストラフェスティバルに披露されましたし、フェスティバル成功の中心でもありました。

私たち岩手県民オケは、貴交響楽団の歴史の5分の1の幼児の段階ですが、定演第8回を迎えようとしています。ベートーベンの一、三、九番交響曲、ドボルザークの四番他多数の曲を演奏してきましたが、今、運命と未完成の練習中です。オーケストラ活動は、あらゆる面で多難ですが、先輩格の貴交響楽団を見習い、援助を仰ぎながら一層充実した活動をと努力を続けています。今回の記念演奏会の成功を祝うとともに、今後のオーケストラ活動の巾広い発展の礎となることを信じます。

25周年記念演奏会、万才

福島市民オーケストラ 大河内 恭 男

創立25周年記念演奏会おめでとうございます。25年と一口に言ってもそれぞれに長い長い、又は短かった25年、いやそれよりも長い長いそして短かった25年、と夫々に感慨深い事とお察し申し上げます。

アマチュアオーケストラ団体にとっては、団体によって多少の相違にありましても、練習場、指導者、資金、メンバーetcと古くそして又何時も新しい問題をかかえざるを得ない運命にありながら、それらを克服して25周年記念演奏会シリーズを実行される事に本当に大変な事だと貴団の諸兄各位に敬服の念を禁じ得ません。又羨ましい限とも感じております。心からお喜び申し上げます。

白河以北一山百文の文化的な谷間にある吾々としても、この様な快報に接し、何か大きな励ましを与えられた様に感じております。そして吾々は吾々なりに驥尾に付しながら、何とか密度の高い活動を一期期しております。25周年記念演奏会 万才!! 御成功をお祈りします。

25周年記念演奏会を祝う

郡山市民オーケストラ 会長 加藤 輝 彦

市川交響楽団の皆様、創立25周年記念演奏会誠にありがとうございます。

ひと口に25周年といいますが、これまでに至る間紆余曲折も幾度か、その御苦労並々ならぬものであったことと拝察致しますと共に、今日の御成功に対し心から敬意を表します。私どもの貧弱な市民オケにおいても口で表現し得ない多くの困難をかかえておりますので身にしみてその御苦労の程が解るような気がします。私どもも負けずに頑張らなくてはと、心を新たに勇気をふるい起しております。今年もまた11月の定演を前に50数名が参加して合宿練習を行ないました。演奏の上達もさることながら、心の通うチームワーク作りに大いに功を奏し得たことによる喜びを感じております。

25年の伝統を誇る市響の皆さん、これを契機に、初心忘るることなく、果しない御発展と、今回の演奏会が大盛況であることを心より祈念しまして甚だ簡単ですがお祝いと致します。

ガッツ 市響、!!

栃木県交響楽団 三 浦 勝

市響、の皆さん、本日はおめでとうございます。昨年の「全国アマチュアオーケストラ・フェスティバル」からはや1年。あの節は大変お世話になりました。私共栃響からも多数参加させていただいたのですが、心厚いもてなしに参加者一同深く感謝しております。それにつけても市響のバイタリティーとチームワークにはただ感心するばかりです。創立以来25年とのことですが、ここまでくには並み大抵のことではなかったことと思います。とにかくオーケストラ運営は根気のいる、しかも骨のおれる仕事ですから。それは何といっても市響の中核がしっかりしているからだと思います。アマオケのリーダーである貴団の、前向きでしかも力強い活躍が、ややもすると弛みがちな私共栃響にピリッとしたカンフル剤を与えてくれています。

今日の記念演奏会には多勢でお伺いしたいところですが、次回定演にそなえて二泊三日の合宿に当たってしまうのです。

さて、本日の盛会と「ガッツ市響」のますますの発展をお祈りしております。

25周年記念演奏会を祝う

栃木フィルハーモニー交響楽団 殿 塚 治

私達の楽団にとって25年という年月は考えつかない程の長い年月だと思えます。創立わずか5年の当楽団ですから高い山と深い谷の連続でした。その労苦に対した敬意を表するばかりです。

同じオーケストラ活動を目指す仲間としてこれ程たのしい仲間、目標とする楽団があるでしょうか。どうかこれからもオーケストラ活動を引継ぐ機関車としてより一層の御発展を期待いたしております。

全国一流のアマオケ市川交響楽団を讃えて

銚子市民交響楽団 塚 本 卯太郎

音楽を愛好する者の一人として今でもはっきりと思いたすことの出来ることがあります。それは大東亜戦争終了後の人心の荒れ切った暗い社会に希望と潤いをあたえてくれ、一筋の光明のごとく輝いたあの音、それが市川交響楽団のすばらしい演奏からでした。あの時の曲目は「セビリヤの理髪師」ベートベン「バイオリン協奏曲」と「第五番交響」であったと記憶しておりますが、なにしろ25年も前のことで立派な演奏会場もなく、中学校の講堂での演奏会でしたが満員の聴衆を魅了した。そして演奏会にたいし大拍手をおくったものであります。団員の皆さんもあの生活の苦しさをのり越え、よくもあそこまで練習されたものと感激でいっぱいでした。それから後何回か銚子市に來られ演奏会を聴く機会にめぐまれましたが、何といっても25年前の演奏は強く印象に残っております。真に今までの市響の活動は県下の人々そして他県の方々へどの位の励みと潤いを与えてくれていることか、その功績はすばらしいものといえるでしょう。全国的に見ても市響の存在は大きく、これまで育ってきたことはすばらしく思います。そして関係者の方々に最大の敬意を表してやみません。世界一流のオーケストラの演奏も確に必要ですが、私達の身近にあるアマチュアのオーケストラはそれ以上に大切であろうと思います。働きながら勉強しながら美しい音楽を創り出してゆく尊さ、市響を一つの頂点として今後益々発展してゆくことを希望します。

25周年記念演奏会を祝う

長野市交響楽団 音楽総監督 柳 田 豊 也

貴楽団におかれましては、本年創立25周年を迎えられ、その記念事業の一環として、このたび盛大に記念演奏会を催されることになり過日その御案内を頂きました。

一くちに25年と申しましても、非常に長い年月でありましてその間年毎に生々発展してこれた御努力は、まことに大変なものであったこと、存じます。プロ、アマを問わず交響楽運動の仲々育ちにくい国柄である我が国で、このように長い年月続いていることは、まことに稀有のことで、まして年を追うごとに向上発展していくに至っては、その間にどのようにひたむきな熱情が秘められているかわかりません。卓越した指導力、円満な人柄と、円満な人間関係、逞ましい精神力などに支えられた団員全体の和によって受け継がれて来た尊い成果ではなからうかと、推察申し上げる次第です。

今後益々向上し発展しますことをお祈り申しあげ、創立25周年記念演奏会の御成功を信じ心からお祝詞を申し上げる次第でございます。

高く翔ける者

豊橋交響楽団 指揮者 森 下 元 康

昭和37年、豊橋市立羽田中学校がNHK全国器楽合奏コンクールに於て全国一位になったその年、貴団の村上先生が羽田中に來校されました。その頃の市響は既に確固たる地位を築かれ、いよいよ円熟さを加えた演奏活動にいましめられていた頃だと思えます。

それから10年経ち、豊橋の呼びかけで全国のアマチュアオーケストラが手を握り合うまで、私達の大先輩としてその幅広い活動は天下を刮目させるに充分でありました。殊に村上先生の温厚な人柄とその誠実さに全国の志を同じくする我々は、市響の真の姿とアマチュアリズムのあり方を常に教えられることが多々ありました。

先般、昨年の10月に第三回全国アマチュアオーケストラフェスティバルを千葉市で開催され、その運営のスムーズさに参加者は目を見張ったものでした。市響のメンバーの方々の中には音楽的には既に相当の名声を得ておられる方も見えますし、何よりも「大人のオーケストラ」とい

う雰囲気があり、更に千葉交響楽協会の皆さんとの連携は他地区に見られない立派な組織であります。

又更に今回、市響ジュニアオーケストラを設立され、今や我国のアマチュアオーケストラのあり方は、この市川交響楽団がそのすべてを代表していると言えます。

この度25周年を迎えるにあたり、心から更に際限なく高い目標を持たれ精進されることを祈ります。末尾ながら団員の方、又市響のファンの方へ村上先生を大切にして下さるよう心からお願い申し上げます。

25周年記念演奏会を祝う

岡崎フィルハーモニー管弦楽団 小 沢 一 俊

モーツァルトとブルックナーというプログラムに対し、いささかの羨望を覚えつつ、市川交響楽団の創立25周年記念演奏会に対し、心よりお祝いを申し上げます。

マネージを処理し組織を運営することがアマオケ活動の最大の要であることを考えれば、25年にわたって活動を持続してこられたエネルギーに対し、最大の敬意を表するものであります。

25周年記念演奏会を祝して

名古屋市民管弦楽団

25才誕生日おめでとう!!

去年はオケ連演奏会担当で御苦労さんでした。そして今年は25周年記念演奏会と仲々忙しい日を過ごしているのではないのでしょうか。しかしその中を団が一丸となって進んでいる姿が感じられ、我々にも励みになっております。ますますの発展を期待しております。

25周年記念演奏会を祝う

石川フィルハーモニー交響楽団 理事 川 崎 直 由

創立25周年を記念しての芸術祭参加演奏会おめでとうございます。

着実に25年を歩み続ける事が、いかに偉大なことであるかは、我々金沢市民がよく存じています。当金沢にも30年前には、金沢交響楽団があり市の文化賞まで受賞したのですが、貴市川交響楽団のように、そのハーモニーを維持することができず、ここ20年あまり、そのハーモニーもとだえたままでした。然し、4年前に石川フィルが新発足し、この八月のアメリカ演奏旅行では、ハンスクレインミュージックホールの演奏会等大成功をおさめる事ができ、加えて明年は、川崎交響（神奈川）との合同第九も計画できる位に生長いたしました。今後は、貴市川交響楽団のように着実にそして地域に密着した根強い努力をし、かがやく25周年をめざしがんばります。どうぞ先輩オーケストラとしての御指導、助言そして末長い御友情をたまわりたく存じます。

そして、いつの日か貴団の御厚意で共に演奏できる日を期待いたします。

最後に、市川交響楽団が、市民の心の灯として、今後ますます精進と発展を重ねられ、やがては実りある三十周年、そして五十周年百周年の佳き日を迎えられることを心から祈念いたします。

25周年記念演奏会を祝う

滋賀県大津管弦楽団 河 原 林 晋

創立25周年記念演奏会の開催を、心から御祝い申し上げます。一口に25周年と申しましても、その年月の間には幾多の紆余曲折もございましたでしょう。それを克服され今日まで、第一級アマチュアオーケストラとしての活動を続けられましたのは、一重に貴団の皆様のご並々ならぬ御努力の賜と拝察致します。更に、貴団の今日在るは、貴団の活動を温かく見守って下さいます市川市民の皆様、関係諸氏の思い遣りがあればこそ、と深く、感じ入る次第でございます。

25周年を迎えられました今、続く10年いや幾世紀を、今迄にも増して研練を積み重ねられ、更に大きく発展されて、千葉県、否、日本の「市川交響楽団」として、益々、御活躍されますことを祈っております。私事となって恐縮でございますが、私共も本年、創立25周年を迎えます。貴団の歩んで来られました道を教えとして、今後の努力を惜しまない覚悟でございます。

今後の貴団の益々の御発展を念じつゝ、甚だ簡単ではございますが、御祝詞とさせて戴きます。

25周年記念演奏会を祝う

広島ジュニアオーケストラ 山 口 和 彦

菊薫る文化の秋、我々日本アマチュアオーケストラ連盟の中核をなす市川交響楽団が、創立25周年の記念公演を県芸術祭の一翼を飾って華々しく挙行されることを聞き衷心よりお慶び申し上げます。

+

げます。とかく混迷を続ける現代、「人びとの心にひそむ郷愁を呼び、夢と希望にみちた生き方」を望む我々にとって音楽文化運動の重要性和価値を深く感じますが、互に雑務や雑念を離れてアマチュア音楽活動が続けることは、むづかしいこととは言え、目的を同じくする我々仲間がどうしてもやらねばならぬことと思うのですが、仲々実行が伴わず挫折し勝ちな中であって市川の皆さんのこうした壮挙は我々に対する大きな教訓でありますし、また現代社会への偉大な貢献であると信じて疑いません。

郷土を想い、音楽を愛し、そして全国の仲間にもいつも温い手をさし伸べて下さる市川交響楽団の人びとの姿を見る時、ほんとうに敬愛の念を禁じ難いものがあります。皆さんのこの公演はきっと千葉県の人びとの胸を打つことと思います。

演奏会のご盛會を祝い、益々ご発展あらんことをお祈り申し上げます。

市川交響楽団創立25周年を祝して

徳島市民管弦楽団 事務局長 松田 稔

青い国、四国より市川交響楽団創立25周年記念演奏会に対し、心よりお祝い申し上げます。

一個のアマチュア交響楽団という社会一個人の利害を越え、絶えず地域社会と行動を共にし、共に音楽文化の向上を目指してゆかねばならない社会を一口に25年というが4分の1世紀もの長い間努力して築かれてきた功績は私共歴史の浅い楽団にとってたのもしくしかも前途に明るい希望と勇気を与えてくれます。そしてまた、技術的にも限らない研さんを重ねられ、この度はモーツァルトの序曲「後宮よりの逃走」そしてすばらしいピアニスト、安川加寿子さんを迎えての「戴冠式」そしてまた、プロ、アマを問わず非常に高度のテクニックを要するといわれるブルックナーの交響曲第7番を演奏されるとのこと、全くうらやましいかぎりです。

市川交響楽団の今後の限りなき御発展をお祈り致します。

最後になりましたが市川市民の皆様にとって、市川市にこのすばらしいオーケストラを有していることは、全国に誇れることだと思います。市川交響楽団に対して、暖かい拍手をお送り下さいます様お願い申し上げます。

World Popular Song Festival in Tokyo '76



Tokyo, Nippon Budokan, November 19, 20, 21, 1976 / YAMAHA

お知らせ

11月14日オープン
ヤマハ
千葉センター

楽器ショップ
家具ショップ
(ホーム機器含む)
ヤマハ音楽教室

千葉市
中央コミュニティセンター1F
TEL 0472 (47) 6611

お問い合わせは日本楽器千葉店へ

お祝い＝J A Oのリーダーとして

佐世保市民管弦楽団 理事長 富 永 雄 幸

創立25周年おめでとうございます。

東京のベッ・タウンといった好条件に恵まれているというだけではアマ・オケは育ち難いのではないのでしょうか。何はともあれ村上理事長さんはじめメンバーの皆さん方の熱心な協力体制、然も一人よがりのない真摯なオーケストラ作りが恐らく日本一といっても過言ではないアマチュア・オーケストラ市川交響楽団を育て上げたのだと云えましょう。

私共、過疎化が進む日本の西果ての町で、集めようにも集めようがないヴァイオリニスト達数人とオーケストラ運動をつづけている者にとっては市川交響楽団の素晴らしい在り方はほんとうに羨やましい限りです。

何れにしてもJ A O（日本アマ・オケ連盟）のリーダー格として市川交響楽団がますます固い団結のもとに世界の音楽界までにも飛躍されんことをお祈りしてお祝いの言葉に代えさせて頂きます。

25周年記念演奏会を祝う

習志野フィルハーモニー管弦楽団 事務局長 服 部 驍

ともあれ、25年—4分の1世紀という歳月は、市響関係者にとって感慨深いものと推察いたします。

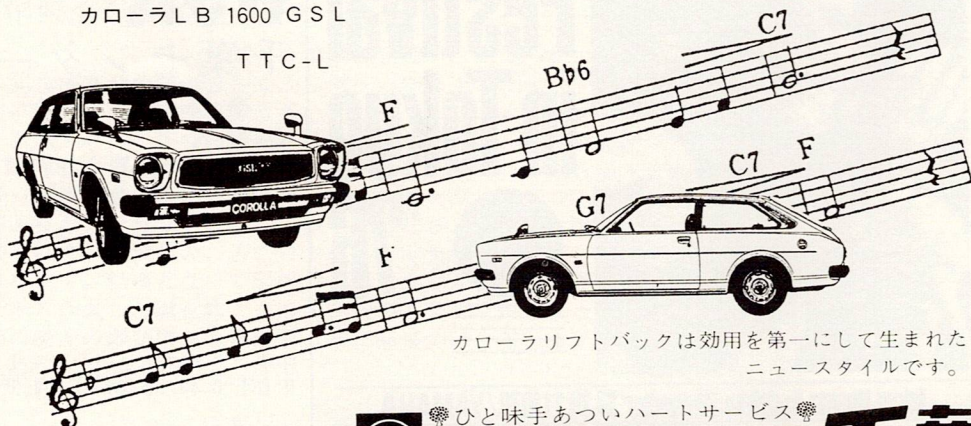
アマチュア・オーケストラ。この維持運営ほど困難性を伴うグループはありませんまい。全国に数十のこの種の団体が活動していると思いますが、この他に、生まれては消えていったケースが無数にあることからみても、そのことは明らかです。それだけに市響25年の歴史と発展は驚異的でさえあります。その困難性に挑戦し、市響の皆さんのご支援を得ながら発足した私たち習志野フィルも8年目に入りましたし、近年県内でもオーケストラ活動が盛んになってまいりましたが、音楽文化の面で、どちらかという低調の感があつた千葉県の中で、その先導的役割りを市響が果たしてきた意義は、はかり知れないものがあります。

どうぞ、25周年を機会にさらに高い目標に向って活潑な活動を展開されるようお願いいたします。そして、広く、深く、永く、市民の心に潤いを与えつづけて下さい。おめでとうございます。

〈乗るだけの車から使いこなす車へ〉

カローラLB 1600 GSL

TTC-L



ひと味手あついハートサービス

トヨタカローラ千葉

本社／千葉市幸町1-6-3 ☎0472(41) 9111 大代表